

傷んだボール再び「プレーボール」

作業所が心を込め修繕

硬式野球の傷んだボールを福祉作業所に修繕してもらって再利用する「エコボール」活動が広がっている。障害者の就労支援にもつながることから各地で採用されている。

縫い目の糸がほつれるなどしたボールは、縫い直さずにティーパ

ツティングなどに使い、処分することも多い。2009年、プロ野球横浜ベイスターズ元投手でコンサルタント会社経営の大門和彦さん(48)が、母校の京都府立東宇治高野球部(宇治市)で傷んだボールが山積みになっていているのを見て、地元のNPO法人「就労ネッ



作業所で行われている硬式ボールの修繕作業(兵庫県西宮市の「ワークホームつつじ」で)＝泉祥平撮影

障害者に報酬、就労支援 全国に広がる

「つつじ」みつくすはあつ』」に相談。同法人が運営する作業所が修繕することになった。

同法人によると、これまでに少なくとも大阪、香川、青森など7府県41チームが6作業所に再生を依頼しているという。チームが支払う報酬は1球あたり50円。企業の協賛金をもとに報酬を上乗せできるケースもある。

兵庫県西宮市を拠点とする社会人の強豪・大阪ガス硬式野球部も同市内の15作業所に300球の修繕を依頼した。同市郷免町の「ワークホームつつじ」では、障害者が糸をほどこいて縫い直してタオルで丁寧に磨いた。参加した小野朋子さん(47)は「得意な裁縫を好きな野球に生かせてうれしい」と声をはずませた。

同チームは4日以降、仕上がったボールを同市内の五つの高校野球部に寄贈。同チームの箱崎豊コ一(41)は「これからも修繕をお願いしたい」と話す。